

特46-690



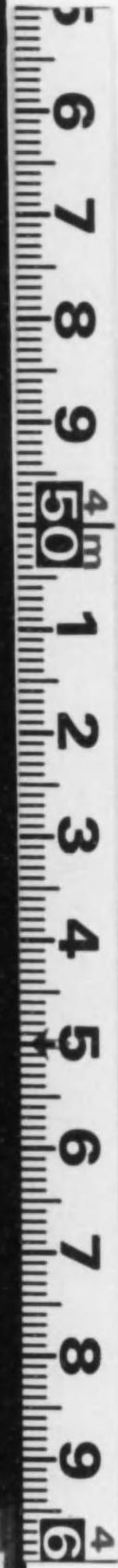
1200600799259

特 46

690

信用公録 9

国立国会図書館



始



立身致富
信公用錄

第九編

東京

國鏡社



緒言

特46
690

一信用は其人の據て以て世に立つ所の城壁なり基礎なり資本なり學者紳士の名譽聲望も之に由て揚り商工業家の發達繁榮も之に由て成り凡人世の事貴賤上下細大輕重を問はず其行動の根柢は皆信用の二字に由て行はるゝにあらざるものなし是泰西諸國に於て夙に交信所の設けある所以にして今我社の信用公録は多く其制に則ち之を參酌して以て時の必要に應じたるものとす

一信用公録の主要は汎く世人の信用を表彰して其事業の發達進歩を助け社交の圓滿を期して其處世の便益活動を圖らんとするに在り故に大人名家の立身記傳を掲て後進者起業の勇を鼓舞し後進者自家の閱歷希望を明にして先輩に親接するの津梁に資する等總て一般の信用を社會に紹介せるの勞を執り將た其機關に供せんとする者なり

一信用公録に掲載する傳記は力めて美德功業を表彰し親睦恭敬の美風を養成せんことを期し一々實地の調査を逐々檢閲を経たるものなれば毫も事實の杜撰訛謬なきを保す但其詳略繁簡文飾に至ては一に編者の取捨に存す

明治卅五年九月

編者謹識

立憲 信用公錄第九編目次

秋元興朝君	正四位子爵	一
北垣國道君	貴族院議員男爵	二
高木兼寬君	海軍少醫總監醫學博士	四
鳩山和夫君	法學博士 及夫人春子君	五
長井利右衛門君	紳商	八
高山甚太郎君	工業試驗所長工學博士	九
瀧澤喜平治君	貴族院議員	九
谷口直貞君	工學博士正五位	十一
原 龍太君	工學博士	十三
渡邊甚吉君	衆議院議員	十四
松本泰輔君	紳商	十六
織田昇次郎君	紳商	十七
岡倉覺三君	美術院長	十八

田村金松君	內外火災保險會社取締役 兼中央貯蓄銀行監查役	十九
藤田藤二郎君	紳商	二十一
相馬永胤君	橫濱正金銀行頭取	二十二
石黒五十二君	海軍技師工學博士	二十三
野崎武吉郎君	貴族院議員	二十五
升本喜樂君	豪商	二十七
野澤泰次郎君	工業家	二十九

勅語

朕惟我皇祖皇宗國肇宏遠德樹深厚ナリ我カ臣民
 克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我國體ノ精華ニ
 シテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス
 爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉已レヲ持シ博愛
 衆ニ及ボシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣
 マセ務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉シ以テ天
 壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
 爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
 斯ノ道ハ實ニ我皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所之レヲ古今ニ通シテ
 謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラズ朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

工學博士
高山甚太郎君

法學博士
鳩山和夫君



海軍軍醫總監醫學博士
高木兼寛君

紳商
藤田藤一郎君



紳商
長井利右衛門君

紳商
田村金松君



紳商
松本泰輔君

文學士
岡倉覺三君

工學博士
谷口直貞君

子爵
秋元興朝君



男爵
北垣國道君

貴族院議員
瀧澤喜平治君



衆議院議員
渡邊甚吉君

紳商
織田昇次郎君



紳商
山中隣之助君

大學教授工學博士
原龍太君

立身致富 信用公録 第九編

國鏡社編纂

◎正四位子爵秋元興朝君

舊上州館林藩主秋元家は徳川譜代の名家にして歴世中
屢々良政治家を出し徳川幕府の良佐として壽答する所
ありしは今世上に顯然たる處なり又維新の際に於て
は早く天下の大勢順逆の理を察し徳川家の私縁を捨て
、朝廷の軍に參し其功大なりしを以て賞典祿壹萬石を
賜へり之れ舊諸侯中特別功勞ありし家にのみ下賜せら
れたる恩賞なり乃ち蜂須賀侯爵津輕伯爵家に同格にし
て同家は舊高僅に六萬石なりしに拘らず舊高拾萬石以
上の奥平、前田、酒井、宗伯等にも越へて拾七萬の祿
券を拜受せらるる故に其資産及名聲は大諸侯のそれと共
に喧傳せらるゝに至れり而して當主興朝君は安政四年
五月四日に誕生し夙に聰明好學の良聞あり深く和漢の
學を涉獵し尙進んで泰西の學理を究めんと欲し英國に
渡航しケンブリッジ大學に入り歐米の諸名士と交遊し

遂に明治二十四年歸朝せられたり

爰に於て我政府は縉紳中の高才に簡選にして辨理公使
に拔擢し後に特命全權公使に任し暫く在職せられしも
君別に見する處ありて其職を退かれたり吾人私に其抱
負せらるゝ處を探知するに政事の改良國運の進歩を策
定するには先づ社會の濟美を求めざる可からず社會の
改良を求めんと欲せば民心を高尙ならしめざる可から
ざることを理想し専ら心を社會の文事に注ぎそが密接
の關係を有する美文の發達に力を用ひて徒らに政權與
奪の渦中に陥入せず諄々風教の改善に全力を盡し爲に
貢獻せらるゝ所多しと聞けり頃日某書肆の公にせんと
せし君の婦人論及美文的演藝論を一見するに其意旨味
ふて餘りありき

而かも君は寛裕大度能く人の言を容れ克く人の難に赴
くの雅量仁心に富み優柔に失せず奇激に走らず所謂大
人長者の風あり本年四十六の壯齡なれば今年年の經歷
を積み進んで政界に驥足を延ばされたらんには正に世
を救濟し聖天子を補弼するの大政治家たらんこと先代
數氏の偉人にも超越するに至らんか吾人は常に斯の如
き高風有徳の君子出づるを待ちて共に天下絶美の我國

風國体を萬國に赫々たらしめんことを期するものなり
天皇陛下萬歳 秋元君健在

◎貴族院議員男爵北垣國道君

君は但馬の人天保七年八月の誕生幼名を晋太郎と稱し其姓は日下部なり日下部姓は開化天皇の後裔にして君夙に勤王の志を懐き四方有志の士と交り王政復古の事を圖ること前編原六郎氏の傳記に於て公録したるが如く遂に鳥取藩に投ずるに至るまで實に同功一体の人なり後君は政治界に身を致し原氏は實業界に入りしを以て今日の逕庭をなすと雖も成功は兩者相譲らず其原氏と共に皇政復古の偉功を没滅せられたるあるも亦異なるも能はず吾人當時の事蹟を追懐すれば泣かざらんと欲するのみ故に吾人は茲に君の舊歴史を畧して叙せず維新以來の功業を限り記述せんに猶ほ國家の元老たり偉人たるを失はざるなり

夫れ君は明治二年六月彈正少巡察に初任し同年八月大巡察に進み同三年終須賀家の壯士國老稻田九郎兵衛の家臣を襲ひたる事件に際し出張して之を調和鎮靜し或の如し君大に内務卿の誠意に感し熊本縣大書記官を拜し直に其任に就きて熱心縣政に力を盡したり而して西南平定し君は同年七月を以て内務省少書記官に轉任歸京せり當時板垣前參議は猶高知縣下に隠棲し地方の有志を協合し自由の説を唱呼したれば其餘勢は四國全体に波及して高知愛媛兩縣治至難の關へ最も高かりし依て内務卿伊藤博文氏は君を派遣して右兩縣政を視察せしめ君の具申を以て四國施政の方針を定め更に同十二年六月君を高知縣權令に任し後縣令に進められたり此時君の同縣に令たるや先づ縣民の難治なる所以を究鑿し縣民を安んずる所あらしめんが爲に阿波土佐の兩國を分離して高知徳島の二縣となし徳島縣令をも兼ねられたり是れ同十三年二月にして此舉大に阿波の民心を平穩ならしめ縣政一部の疾患を除きたるに於て同年十二月兼職を辭したりし

是に於て君は専ら意を高知縣治に用ひ政府の方針を明かにして恩威並び行ひ縣民をして向ふ所を知らしめ漸次各派を近接せしめて縣治の基礎を立てたり若し君の同縣を統治する微かせは一場の禍亂を見るあらん亦知るへからざりし是れ國家に對する大功にして高知縣民の幸福と謂はざるへからざるなり

は北海道及び樺太の地を巡察して北門拓殖警備の要を具申せり同四年七月鳥取縣少參事に任じ同年八月開拓使七等出仕に補し同年十二月開拓使權少判官に移り同五年九月開拓使少判官に陞任し榎本子爵と共に山野を跋渉して物産の取調を爲せり同六年四月開拓使六等出仕に轉し同七年七月開拓使五等出仕に進補し樺太に在勤す當時君は北海道拓殖意見を建議し開拓長官委任年限十年なるを三十年と爲さんとして容れられ十一月其官を免せらる

君はより東京に歸り専ら北海道拓殖上の得失を講求し一大畜會社を北海道に起さんと欲す其調査既に成りたるに際し偶々西郷氏の亂あり熊本地方最も防禦の要衝たり是に於て大久保内務卿は君を憐憫して曰く西郷の兵を起す是れ實に國家の重事なり君日來官を棄て専ら民業に力を致さんとするも時勢は之を許さず且世上は君の進退に就て疑懼を懐く者なしとせず君にして一朝過つて彼に黨せんか半世の忠志を塗抹するものなり如かず立て國家の爲に熊本縣治鎮定の功を奏すへしとて眞誠面に表はれり君固より専心民業に従はんと期したり豈他念を有せんや然れ共世上の嫌疑實に内務卿の言

殖の業を以て君に委せんとして北海道長官に任せり
君其任地に赴くや拓殖の骨子は運輸の便を得るにあり
運輸の便は鐵道を経とし運河道路を緯とし其起點に港
灣を築造し水陸運輸の聯絡を全くして始て拓殖の基礎
立へしと終に全道千〇卅哩の鐵道經營を策定し之を政
府に開陳し政府能く之を容れ北海道鐵道の畫策決定し
函館小樽兩港灣の開築も亦成れるに同廿九年政府は更
に拓殖務省を設けて君を拓殖務次官に昇任し拓殖の業
を擴張せられんとするあり君其任を拜し翌年病の爲に
野に退き再び朝に立れざるも我聖明慈仁に居ます
陛下は深く之を惜ませ給ひ貴族院議員に勅任し錦鷄間
祇候を命せられ正三位勳二等に昇叙し男爵を授けて華
族に列し大に寵遇の典を垂れ國家の元勳を以て待ち給
ふ然れども吾人私かに考ふるに是れ君が維新後の文勳
に於てすら未だし況んや維新前王事に盡したる所能く
之れを詳かにすれば記すべき者豈に是に止らんや

◎海軍々醫總監醫學博士高木兼寛君

名將たりずんば名醫たれとは古往の格言にして亦た今
來の金言たり予今名醫界を詮して高木兼寛君に至る洵

に此感あるを免れ得ざるなり

君は元鹿兒島の藩士にして名聲夙に刀奎社會に冠絶し
たるの名士なり幼名を藤四郎と稱す家世々武を以て島
津家に仕へ上士たりしも君年甫めて八歳同藩の士中村
氏に就き和漢古今の學を習修し後劍鎗弓術等の道を講
し慶應元年始めて洋醫石神良策氏及び岩崎俊齋氏等に
就き醫學を修め綠鬢早く令名を博し明治元年師俊齋氏
藩命を帯びて京都に到るや君其跡を追ふて上京したる
に師既に死し君茫然爲す所を知らざりき而かも君が剛
健なる斯かる事變にも志を撓屈せず恰も維新戰亂の時
なるを幸機として君天を仰て曰く丈夫一身功を立て名
を成す此時を逸す可らずと遂に身を挺して藩軍治療院
の助手となり同年六月轉して奥羽戰地病院助手に移り
同生起死の功あり東北平定の後歸藩し鹿兒島藩開成學
校に入り蘭學英學數學理學等を修めたりしに同二年醫
學校六等授讀となり尋て三等教官に榮進して校長に任
せらる同五年兵部省に出仕し海軍中軍醫に任し大軍醫
より海軍少醫監に進み從六位に叙せられたるも同八年
官位を返上して海軍生徒となり英國に留學してセン
ト、トーマス醫學校に入り學期試驗毎に優等の名譽を

得て解剖助手に擧げらる尋て外科學校よりメンパルシ
ツプ、オフ、チプロマを受け實地產科上達の賞を得又倫
敦內科學校よりライセンシエド、オフ、チプロマを受け
られ以來内外科及び産科の當直醫を勉めて賞狀を得た
り同十二年外科解剖學及び實地外科の競争懸賞試験に
應し最高點を得て銀製賞牌を受け更に學術優等品行方
正の廉を以て黄金製賞牌を領し同十三年フエローション
プ、ラフ、チプロマの學位を受け無上の光榮を負ふて歸
朝し直に海軍々醫中監東京海病院長に任し正六位に叙
せられ習年海軍大醫監に陞任し同十八年海軍々醫總監
に進み從四位に昇叙す二十年文部大臣の推薦により醫
學博士の學位を授けられ同年海軍中央衛生會議々長に
補せられ憲法發布紀念章を授與せらる同二十四年正四
位勳二等に叙し尋て勅選を以て貴族院議員となる
是より先明治十六年海軍兵中脚氣症の爲に生命を失ふ
もの多きを慨嘆し兵食改良の必要を親く
天皇陛下に直奏し翌年遂に海軍一般の兵食改良を實施
し大に効績あり又君は往年歸朝後直に東京慈惠醫院の
設立を發起翌年開院して院長に推され廣く救貧施療
の恩を施し今日に至れり

近年東京市政の非事類々として曝露するや市民は君の
德行を頼みて其刷新を遂成せしめんが爲に君を市會議
員に推し之を議長に擬し參事會員に選定せんとしたれ
ども君は本務多事なるを以て親しく身を市政に投ずる
こと能はず要衝を避けて傍面より監督改良の任を完ふ
せらるゝと云ふ
實に君は我國醫界の泰斗にして亦社界の明星として重
視せらる其國家に貢獻せられたる所夥多なるは吾人の
贅するを待たされども世の薄志弱行者を奮起せしめん
がために君に請ふて紀錄を公録し其功徳を頌表せんと
欲するなり

◎エール大學 名譽大博士 鳩山和夫君及夫人春子君

初は處女の如く終は脱兎の如しと云へる古諺あり吾人
其實證を鳩山君に於て徴知せり君の始め勝山藩貢進生
として大學に入るや容顏秀麗氣風柔順一見娘子の如く
之に交はるに愈處女の風あるを覺へたり然れ共其學業
に於ては常に衆生に超越する處あり故に人以其將來を
トして學者たるべきを許すも到底經世の人にあらずと
あせり思はざりき君か明治立憲政下の大政治家となり

脱兎の勢を以て克く一世を風動せんとは

抑君は岡山縣下美作國勝山の入安政三年四月三日江戸の同藩邸に生れ幼にして儒者海保辨之助氏に漢學を學び明治三年藩主三浦子爵の選抜に遭ふて大學南校の貢進生となり年齢十五歳三浦和夫の名を以て入校せり君は其始め英語を學んで秀才の譽を受け後ち開成學校に進み法律學生に編入せられ當時天顏に咫尺し奉りて泰西法學通論を進講して感賞を蒙りたるとすらありき明治八年同校法學生中第一等の成績を以て官費米國留學を命ぜられ新約克コロンビヤ法學校に入り全十年五月優等を以て同校を卒業し法律得業士となり更にニュベン府エール大學校に入り法律學を講習して全十一年六月法律學士となり全十三年七月博士論文を呈出して法律博士に擧げられたり

其論文は日本家族制と羅馬家族制の比較にして同學位授與式に於て此論文の主旨を演説し白哲人種をして黃色人種中亦斯の如き國あり斯の如き人物あるかを驚歎せしめ大に東洋の名譽を發揮したり之より先嘗て伊藤博文氏が岩倉大使の隨行員として米國に渡航したる時桑港商人俱樂部の招待に臨席して日本の赤丸旗章は今

日こそ赤封蠟の如く何の威嚴もなければも他日必ず旭日の如く光輝を發すべしと述べたるを見て米國人は東洋人中巧妙なる英語演説として歓迎したることありしに之を君の演説と對稱して共に今日に至るも尙賞嘆する處なり

六

而して明治十三年八月文部省より成業歸朝を命ぜられ年齢廿四歳を以て法科大學の法學講師に擧げられ數年間大學に教鞭を執り來りたるに全十五年の卒業式に於て教育當局者の無定見不知識なるを嘲罵するの演説をなしたりといふに於て懲戒的論旨免官となり直に代官人に加盟し東京代官人組合は君の入籍を迎へ組合會長の椅子を呈しれり尋で東京府會議員となり其郡部議長に薦められ東京市政の爲に盡す處ありしに全十八年條約改正準備の必要として外務大書記官に擧げられ取調局長を兼ね外交の要務を以て一身に負擔したりき今の外務大臣男爵小村壽太郎佛國全權公使栗野慎一郎氏の如き皆君が舊學友の縁故に攀て其幕僚に擧げられたるの人なり

尋て明治十九年再び教育界に入りて法科大學教授同大學教頭に兼任せられ同二十一年法學博士の學位を授け大學の講演を囑托せらるゝの名譽を負ふて其任務を全ふせり

此に於て本年衆議院議員總選舉に臨みても東京市候補者として大多數を以て當選し愈益國家の爲に貢獻する處あらんとすと云ふ處女を以て脱兎に移るの君なれば實に風を呼ぶの虎雲を起すの龍となり一世を救済するの偉勳を立つるなしといふべからざるなり

又夫人春子君は舊松本藩渡邊國武子等の同系渡邊氏の女幼にして孤となり祖母の鞠育を以て書を讀み歳甫めて十二文部省模範女學校に入り後ち女子高等師範學校の學生に擧げられ優等を以て卒業し米國留學の内命を蒙りたるも鳩山和夫氏に嫁して良人に貞婦舅姑に孝子子女に慈母となりて日本巾幗社會の明星と仰がれ傍ら女子教育の爲に精勵し又献身的運動を以て國家の爲に盡す處あり伊藤侯大隈伯の如きも皆夫人の徳を高しとて共に國事を諮り議すると云ふ曩きに良人と米國に遠遊せし時伊藤侯に政治上の助言を與へて内外の新聞紙に喧傳せられたることもありき以て其識見を見るに足るべきなり

られたり然るに全二十二年條約改正中止の政變あるに當りて大隈外務大臣と共に懸冠して再び代言事務に従事したり

此翌年帝國議會開設の事あるや君直に衆議院議員候補者として府下第十區に於て選舉を競ふたるも君の屬する改進黨の勢力微弱なりしが爲に落選し全廿五年の總選舉に於て府下第五區の議員に當選したりき

爾來毎回當選して明治三十年衆議院議長に擧げられ從四位に陞叙あり大に名譽を擴め隨て君の黨派も勢望を得るに至れり依て同三十一年内閣組織の大命は憲政黨の首領大隈伯に降り君は直に司法外務文部三大臣の一に居られんこと實に天下の輿望なりしも大隈伯の事情の爲に降て外務次官を以て大臣の職を攝理し却て内閣は無識無能の人士相比周して自由の星氏進歩の君等有方者を收容する能はざりしに於て其内閣は半年を出ずして瓦解し君も亦退官して三度辯護士となり衆議院議員憲政黨の院内總理たりしが同三十四年米國エール大學に於て世界の碩學を簡撰して大博士の名譽を贈るの舉あり乃ち君は北米合衆國大頭領ルーズベルト氏我大勳位伊藤博文氏等と共に大博士の月桂冠を戴き刺へ同

◎紳商長井利右衛門君

長井家は日本橋區大傳馬町にして世々茶業を營み居りしが三代利兵衛氏に至り皇政維新の前より海外貿易のことに着眼し漸次之れを開始したるに穎敏多才なる君は此間に立つて手腕を揮ひたるに於て業務は日に盛大となり資産漸く増大するに至れり而して利兵衛氏と君か非凡なる才能と超群なる手腕を認めて其實子ありしにも拘はらず遂に君を養子となしたり

君是より四代利兵衛と改め益々其業務に勵精したれば家運昔日に十倍し始めて鉅萬の資を増蓄するに至れり然かも謙遜なる君は其實子の成長したるより其家名及び資産を譲り君は別に利右衛門と改稱して蠟燭町に隱宅したりされど利兵衛氏の未だ其業に不熟練なれども其性質の異なるより公然其業務には干渉せざるも隱然其資産の増殖に關しては尤も深慮したり然るに右利兵衛氏は一昨三十三年中不幸病歿しにるより親族大谷嘉兵衛氏を始めとして親族中擧げて君に再相續すへきを依頼したるにより君は深く長井家の前途を思ひ其隱居中種々經營する事業ありたりしに不拘百事を擲つて君

は其請ひを入れて戸主となりぬ而して君か其家名たる利兵衛を襲名せざりしは一度利右衛門と改稱して其信用を博したるより再び利兵衛と復名するの要なきを以てなりと故に長井家に於ては君の存生する間は云はすもあれ千萬元と雖も其資産は健全なるべきなり而して君か國利民福に貢し利用厚生に献しつゝある予儕は君か蹟歴に徴して察知するなり如何となれば現實君か從事しつゝある多種なる業務は悉く公共的にして國家的なるを數へ來れば乃ち第一臺灣貿易株式會社の副社長にして次は株式會社横濱七十四銀行監査役たり又第三銀行、横濱貯蓄銀行、武藏貯蓄銀行、日東貿易株式會社及び日本製茶株式會社の取締役等にして孰れも君か名聲と巨腕に待つあるものなりと

予今君か蹟歴を案するに幼年より長井家の爲に盡瘁して其學業を勉むるに暇をかりしにも拘はらず既に偉大なる人物として世務を經營し且成效を爲たるものなれば世の空理空談のみを爲て日月を徒過するもの須らく君か蹟歴を讀んで感奮挺起する處あらざるべからず

◎工業試験所長工学博士

高山甚太郎君

君は安政三年十二月朔日を以て加賀國大聖寺藩邸に生る幼にして俊英藩の時習館に入り漢籍を學び嶄然頭角を見せり明治二年藩の撰拔を以て同國金澤の英語學校及び致道館に遊び英學を専攻し同五年篋を東京に負ひ第一番中學に普通學を修め遂に進みて開成學校に移り専ら化學を研究し同十一年業を卒へ理學士の學位を受け繼いで同校理學部化學助教に擧げられ化學の教授を擔當せり同十九年農商務省四等技師に任じ同廿一年同省總務局分拆課長を命せらる其の課長として分拆課に在るや兼て修得せし學術上深く考ふる所あり學術的研究を積みしもの多し今其の一二を擧ぐれば内國漆喰土の研究、本邦礦物の化學的試験、酸類の蠟石に於ける作用、内國產耐火材料の研究、練化石の試験、苦土質耐火煉化石の新製法等にして此等研究の成績は時々化學會、工學會等の雜誌に登載し學術界及實業者を利益せし所多し同廿二年工科大學探鑛冶金科試金術の教授を囑托せらる同年農商務省の命を以て獨逸に派遣せられ同國中央試験場に在りて専ら其の組織及び事務處

理の狀況を調査し傍ら工藝大學に應用化學を窮め各地工場を視察し尙ほ「セメント」學者「ドクトル、ミハユリス」の専門試験所に就き其の學術上の蘊奥を叩き同廿四年四月歸朝せり我國に於けるセメントは近年の工業なるに係はらず其の發達顯著にして内地の需用を充たし更に外國に輸出するの盛域に達したるは君の與かりて方ありと謂ふべし同年文部大臣の推薦に依り工學博士の學位を授けられ爾後農商務省に東京高等工業學校に關係甚だ多し同廿九年十月再び官命を帶ひ歐米各國を巡回し製鐵用炭炭并に耐火材料に關し調査せり同卅三年六月農商務省工業試験所長を命せられ從五位勳五等に叙せられ各商工業上の委員を囑托せられ現に其の職に在りて孜々企畫する所あり而して釀造試験所の設立を見るに至り窓硝子製造の漸く將に緒に附かんとするか如き殆んど君か首唱計畫の致す所と稱するも不可なく實に君の如きは終始一貫能く國家に盡す者と云ふべきなり

◎貴族院議員瀧澤喜平治君

君は栃木縣の多額納稅者にして縣下豪富を以て貴族院

議員に勅任せられたる人なり其財産を伺ふに田畑山林を有するもの縣下第一等と稱せられ家に珍寶奇材を藏する幾多なるを知るへからず通貨の蓄積も亦比類渺なしと云ふ而して君の先代は下野國鹽屋郡氏家町大字櫻野村の農家にして肥料商等を兼ね勤儉貯蓄常人に絶し正直善業の餘慶を以て福徳の家となりし舊家なり關東諸國に於ては櫻野村を知らぬ人あれども瀧澤の名を記せざるものはなしと云や

君は天幸を以て斯る大家に生るゝと雖も幼より父母に仕へて孝子たり家を治めて勤格なり信仁篤實の行ありて郷黨隣里其徳を稱せざるものなし加ふるに君は祖先傳來の農桑事業を勵行するのみならず天稟理財の事に長する所あり一家の資産を維持して能く公正に運用し各種銀行會社等に投入し其技術を以て重役に任し大に其舉を發揚せしめられ且公益事業の爲に貢獻するもの甚だ寡からずとす其重要なものを舉れば左の如し
第一 君は郷里氏家町附近の子弟を教育するが爲に普通學校を設立し數百名の學生を收容せり
第二 君は地方細民の爲に施療院を設け弘く救恤の事を實行せり

第拾 君は亦東京市の東海銀行、栃木縣の鹿沼銀行、今市銀行、黒羽銀行等にも其監査役を以て行務を統轄せらる

而して君の關係せらるゝ公益公利にして其功なきはなく諸銀行諸會社と雖も皆事業發達營業繁盛せざるものなし之れ要するに君が心術公正なると經濟に巧妙なると財産に富裕なるに於て事業に無算の經營をなさず執務に資産不足の憾なく業務の進行正順なるが故に其間一の失態放漫なきが爲なりとす
君今や多年善行の美果を以て官其家に表旌せられたる所多く身は貴族院議員に列し國家の大政を協賛し奉るの重任を負へり其成績や必らず君が公共のため成達し會社銀行を發達したるが如く日本國民のために偉勳を建てられんと夫れ明らかなり吾人は君が議場に立て國家百世の長計を策定せらるゝとを信じて疑はず又陛下の貴族院議員たるに最も適當なる人たるを社會に紹介せんとす

◎工學博士正五位谷口直貞君

谷口君は容貌魁偉氣宇濶大一見強剛なる武人の如く宏

十

第三 君は栃木縣の勝景を保存し日本の美術を世界に光耀するの善志を以て日光山維持の爲に資金を投し身を致して保晃會を設け稍や其功を全ふしたり

第四 君は殖林養蠶の業は國家富強の基本なることを確信し専ら力を其業に注入せり

第五 君は本年の風水害は栃木縣最も巨大にして山を摧き家を壊ち田を流し堤を破るもの擧げて數ふへからず君一家の資産のみにも巨萬圓の損害に屬すれども更に自家の得失を意とせず縣下農民の爲に回復救護の道を講きて深く盡瘁する所あり

第六 君は豪商菊池家と共に株式會社第四十一銀行を設立して東京にも支店を開き營業を盛大にして君其頭取たり

第七 君は郷里の融通機關として一家一門の資産を融集し氏家銀行を設立して地方の利便を計り其頭取たり
第八 君は栃木縣農工銀行及下野銀行の發起人となり之れを設立して現に其取締役たり

第九 君は下野紡績會社、下野綿布會社、下野製麻會社、金町製瓦會社等親友野澤泰次郎氏の經營なるものにも之れを助力して其取締役に就任せり

量なる政治家の如し實に然り君は以て武人たるべく政治家たるべき資格を備へて思想周密技術の好尚あり當代無二の良工學者なりと稱せらる

吾人私に君の閱歷を調査するに君は大和國郡山の人柳澤伯爵の舊臣にして本年四拾九歳安政二年十一月の誕生なり幼名を市助と云ひ健全の體質伶俐の辯才ありて庠序の學校に於て成績優等俊才第一に擧げられ明治三年十月貢進生に撰拔せられたり蓋し貢進生とは舊藩時代にて有爲の青年を大藩三名中藩二名小藩一名の制を以て朝廷に貢進し國家の良材を育成せんとするものなりき現に古市工學博士、原口工學博士、長谷川工學博士、南部工學博士、穂積法學博士、鳩山法學博士、田尻法學博士等の如き皆其一人なり

而して君は貢進生を以て大學南校に英語を修めしに早くも明治四年廢藩置縣の大變革に遭ひ貢進生の制度廢止せられ遂に君等は學資を供せらるるなきの不幸に陥りたれ共君は文部省の試験に及第し文部省貸費生に擧り直に文部省直轄第一大學區第一番中學に入り開成學校に進て工學科を専修し優待生に登り同九年六月官費を以て英國留學を命せられ同年八月渡英して「スコツ

十一

トランド」の「グラスゴウ」大學に入り同十一年四月全科を卒業して工學士の學位を受け同年九月英國「エリス」製鐵場に器械製造の實地研究をなし傍ら「グラスゴウ」大學に於て理科の學位試験を受けて理學士の學位を得更に終身同大學公議員に列するの榮譽を授けられ同十二年倫敦府萬國農業博覽會諸機械審査助手に擧られ精勵能く其任を完ふしたるに於て君の名聲は愈々高く同十三年六月白耳義國「アントゥエル」府水道工事に技師に聘せられ拮据其職に當り同十四年一月職を辭し學說に精通し實際に熟達して同年九月歸朝したりき是より君は東京職工學校、東京大學理學部及び工學部に教鞭を執り理學部諮詢部會の會員に推薦せられ又中學校、師範學校教育免許學力試験委員となり教育上に貢獻する所ありしと云ふ

然れども君の志は獨り教鞭を取れるを以て足れりとせず進んで技能を實地に應用して國家の富強に裨益する所あらんとし同十九年七月農商務省技師に轉任し工科大學教授を兼ね心を深く我國の絹綿紡績及織物の業に注ぎ明治二十年春自費を以て歐米諸國を巡歴し各紡績織物工場の実況を視察して全年秋歸朝し同時に上州新

十二

町紡績場を改良し綿糸としては鐘淵紡績會社を創立し絹糸としては又彼の有名なる京都第一絹糸紡績會社を創設し大に絹綿紡績上の進歩を助けたり是れ我國に於ける絹糸紡績の嚆矢にして我國今日の盛大を見るは實に君の力にして今日に於て絹糸紡績に従事せる校師は皆君の門下より出たり而して同二十一年文部大臣の推薦により工學博士の學位を受領し同二十二年警視廳より府下諸製造所の機械検査及工場取締法の制定を囑托せられ農商務省二等技師に進み奏任官二等に陞叙し尋て東京市建築條例取調を托せらる又諸官省より工事の檢閲監督を托せらるゝこと幾回なるを知らず同二十六年君は本邦學術の進歩せしも實業の發達せざるを慨し大に民間の事業に盡さんとして斷然官職を辭し自由の身となりて各工場の顧問監督となり又谷口式乾燥機械を發明し農商務省より特許を受けたり蓋し此機械は大に識者の喝采を博し厚木倉庫株式會社農務局製茶試験場、東京製絨株式會社、町田爾乾燥株式會社、三井乾燥場、愛知縣水産試験場等は進んで其装置をなすに至れり加之君は我國の窯構造は薪料に不

經濟なるを憤慨し廉價の石炭を以て高價の薪炭に代用する企望を起し遂に改良竈を發明し其筋の特許を得たり此竈未だ市場に登らずと雖も民間に實用するに至れば社會を利益する所幾干なるを知るへからざると吾人の信して疑ざる處とす

又同三十二年農商務省に鹽業調査所を設立せらるるや其顧問に任し勅任官に進められ次て正五位に叙せられ斯業界に盡されたる所寡からざるなり

又君が顧問監督となりて盡力せし諸會社を列記すれば左の如し

富士紡績株式會社、名古屋紡績株式會社、和歌山絹糸紡績株式會社、郡山絹糸紡績會社、鐘淵紡績株式會社第一絹糸紡績株式會社、天滿紡績株式會社、廣島綿糸紡績株式會社、三井新町紡績會社其他新設工場殊に紡績工場的设计及び諸機械の撰擇上臨時の相談を受けられたるもの枚擧に遑わらず

而して君は我工業界特に紡績事業に盡瘁し我國紡績事業今日の盛榮を見るを得たるは實に君の賜かり尙ほ君は將來に於て其周密なる思想を以て斯學界に力を致されんとす是れ吾人か君を多とする所其閱歴を録して天

下に紹介し以て青年書生立身の龜鑑とする所以なり

◎工學博士原龍太君

物質的開化の中心點たる東京は交通機關稍や備り殆んど徒歩するの必要なきが如く鐵道あり腕車ありと雖も鐵道は布設區域狹隘にして全部の便に涉らず又腕車は勞賃不廉未だ一般の利便たる能はず獨り馬車鐵道によりてのみ大部分の交通を助けり特に其區域は廣大にして實に東京市中重要な交通機關たり而して君は此布設工事に於て最も力められたるの一人なりとす此時君は東京府一等技手なりしも五等技師に陞任し從七位に叙せられ又難工の間へ高かりし吾妻橋の架設工事に任じ原口工學博士と共に拮据經營其功を奏し日本第一の橋梁架設者として君の名聲を發揚し政府も厚く恩賞を加へたりし尋て君は第一高等學校に聘せられて測量學の教鞭を執られし

明治二十四年東京市飲用水の汚濁にして非常の害毒を流し萬病の媒介となるを以て君は深く憤慨して衛生上水道布設の忽にすべからざるを説き東京市水道改良工事の必要を主張し該工事の起るに當り其要部を擔當し

成績良好にして全市民の災禍を救ひ今日の飲用水あるに至らしめたり

又君は専ら市内鐵橋工事の主任技師となり深達なる學理の應用と多年の經驗とにより其設計監督の任に當られたりし

但し君は舊福島藩士にして安政元年十月を以て同縣下瀬の上驛に生れ幼にして敏敏學才に富み明治八年開成學校に入り同十四年東京大學を卒業し理學士の稱號を受け同二十九年市區改正委員に擧げられ勳六等瑞寶章を賜ふ同三十二年三月博士會の決議によりて工學博士の學位を授けられ同年七月工科大學教授に兼任土木工學第一講座を分擔し後從五位に進み高等官三等に陞りたる人にして市内鐵橋の内吾妻橋等大工事の外西河岸橋、御茶ノ水橋、和泉橋、左衛門橋、港橋、淺草橋高橋、新橋、京橋、江戸橋等も皆君の設計せられたる所なり其功績知るべきなり

衆議院議員渡邊甚吉君

古語に曰く喬木は風に撼まれ大名の下に誹り多しと宜なる哉君は資産富貴識見高遠にして完全なる教育を受

け一點の君を批難すべきものなしと雖も世或は君を稱して傲奢なりと云ひ或は點指なりと云ひ近時又君が政府の内命を奉じて中立議員を團結し以て爲にする處わらんの虚説を流言したりき誤るも亦甚だしと謂ふべし資産豊富にして黄金に望を絶ち聲名自ら身邊に供はるの君何を苦んをか潔からざるの所爲を敢てして誹謗を招くの愚を學ばんや吾人は君の事蹟を證明せん爲がに今其閱歷を公録し以て世人をして君を誤認することなからしめんと欲するなり

君は岐阜縣の多額納稅者にして岐阜市松屋町二丁目に住し家世々絹布織物商を以て業と爲し甚吉を其通稱とせり故に織甚と稱すれば濃飛は勿論關の東西に至るまで能く其名を知られたる該地の一長者なり君又家名を嗣ぎて甚吉と稱し夙に經濟の學を修めて其道に通じ更に明治八年出京して銀行事務を實習し郷黨の同志と共に岐阜市に第十六國立銀行を創立して頭取の重職に當り年少を以て能く行務を整理したり而も君は内地の商業經濟を振興するを以て足れりとせず尙ほ清國貿易の我國を利するの尠少にあらざるを察し明治十一年支那内地を漫遊して上海港に滯留し商業經濟の情況を視察

して大に得る所あり歸朝して支那貿易を開始し縣下の物産を海外に輸出して我經濟界を振起せんと欲し廻瀾社なるものを設けて物産の海外輸出を奨励し併せて勤儉貯蓄の美風を養成し又自費以て岐阜市に金華小學校を建設して郷黨子弟を教育し或は橋梁を架設して交通を利便し皆之れを市有財産に寄附し赤十字社に賛襄して總裁の宮殿下より有勳章を下附せらるゝ等公共のた

其會頭に推され同地商工業の進歩發達を企圖して怠る所なく信望益々高く後同二十三年帝國議會の開設あるや岐阜縣多額納稅者全員一致の投票に於て貴族院議員となり議會の召集に應じては多額納稅議員を糾合して其の牛耳を執り土木會委員、貨幣制度調査委員に擧げられ其他大政を協賛するに於て功勞多く又東京市實業界に入つて敏腕の聞へありし

めに勇進したるもの擧げて數ふべからずと云ふ
而して君は明治十二年選ばれて町會議員となり議長に推され益々地方市政の爲に計る所あり同十四年濃厚會社を起して其社長となり物産の増殖改良を促して地方の爲めに盡瘁して十年一日の如し特に君は岐阜市新設の時に臨んで岐阜一町の能く市制を布くに足らざるを以て比隣數村を勸誘して本市を設立したるの功勞大なるのみならず其徳望は全市内に冠たるにより同市長に擬せられたるも君は實業上多忙の身なるを以て之れを辞任し市會議員の就職を要請せられ其議長に當撰したるき

同三十年貴族院議員改選期に至つて友人早川周造氏に其職を譲り地方に歸臥して創立時代より其頭取たる株式會社第十六銀行、岐阜貯蓄銀行の業務を統督し傍ら北海道炭鐵鐵道株式會社取締役、濃飛農工銀行取締役を兼務して暫く政治界に於ける鋒鏘を収めたりしに本年の總選舉は市の獨立選舉の第一期なりしを以て強て君に衆議院議員たらんことを請ふて止まず遂に之れを承諾せられたり是に於て君は上京したるに衆議院議員中中立の主義を奉ずるものは早くも君を擁して壬寅會を團結し政友、進歩兩大派の間に介在して多數黨の暴壓を抑制し正義を暢發せんとするに至れり

又同年君は海防費數千圓を献納して銀製黃綬章を賜はり岐阜商工會長に擧げられ後商業會議所設置以來常に

蓋し其功勞は嘗て君が貴族院に於て貢獻せられたるよりは偉大ならんこと明らかなり

◎紳商松本泰輔君

世には名聞に渴して却て醜聞を流すものあり利得に熱して却て損耗を招くものあり豈に憫笑すべきに非ずやヨシ世の小人等一時名聞利得を獲取するあるも其功は偽なり其績は詐なり何ぞ學ぶべき所ならん宜しく名聞利得を頭裡に銘せず諄々として小より大に進み遂に名聞利得の來り迎ふるを待つもの之れ士君子の執るべき所なり松本泰輔君の如きは夫れ其人か

君は幼名を利三郎と呼び天保十二年七月武藏國深谷に生る夙に敏慧にして義氣あり最も進取の氣象に富む君常に思へらく我郷は僻陬にして商況萎靡我飛躍すべき地に非ず須らく商機の埋伏地なる江戸に出で、身を立てんと即ち嘉永六年君年僅に十三江戸に到り本町の藥種問屋汐見彌助氏の店丁となり勤勉敏捷を以て稱せられ信憑最も厚し偶々店主横濱に貿易業を開くに及び君を抜擢して随伴せしめ同地に於て専ら通商業務に勉勵し主家を益したると大なりし依て店主は大に君を賞賛して措かず後遂に日本橋區本町四丁目松本伊兵衛氏の養子となす是より君は能く養父の命に服し家を繼に及

十六

んで名を伊兵衛と改め拮据精勵益々店務を擴張し我藥品輸出の販路狹隘にして其數も亦寡少なるを奮慨し若辛慘憺遂に羽前の産出に係る薄荷油及び薄荷腦を撰擇し外商に托し見本を各國に送付し之が品評を請ひしに君の慧眼に違はず外國商界中大に歡迎せられて需用の販路忽ちに開け今や薄荷を重要なる輸出品中に數へらるゝに至り産出地も爲に望外の鴻益を享くるとなれり明治十年君は泰西名醫の著書に涉りて深く領得する所あり乃ち高貴なる原料を配合して痔疾丸、痔漏膏、驅微藥、英藥英明膏及び鴻通散等の靈藥を發賣し其効驗顯著天下の廢疾者を救ひ需用日に月に嵩み名聞利得共に來り天下君の名を知らざるものなきに至れり

同十七年東京藥種問屋組合改正組織以來年々其頭取に推選せられ藥業界の牛耳を執りて常に人命保險の必要を唱へ同二十一年帝國生命保險會社を創立して其重役に擧げられ京阪地方を遊説して保險人を募り同胞の安危を救はんことに勉めたり同二十四年五月東京商業會議所の設立せらるゝや君は府下實業界の重望を擔ふて同議員に當選し同三十三年家を令息に譲りて松本泰輔と改稱し翌三十四年松本合資會社を組織して其代表者

となり從來の營業たる藥種貿易及び賣買の範圍を擴張して藥品輸出に力めて倦むところなしと云ふ實に老ひて益す壯んなりとの一語は君を評する爲めに現はれたるか

斯の如く君は我藥業界に藥品輸出なる新生面を開き我藥品の價値を發揚して國家に盡され公其事業に力を致して社會に貢獻せられたる所最も大なり其偉績は滅せんとするも滅するを得ず其功勞消へんとするも消ゆるを得ず名聞利得自ら到り吾人をして君の閱歷を公録して後進子弟立身の龜鑑となさしむるに至る君も亦明治聖世の偉人なる哉

◎紳商織田昇次郎君

君は和歌山縣の人安政二年三月の誕生にして夙に實業を以て身を立て名を成さんと欲し明治九年二十二歳を以て東京に出で或は書生となり或は商人となり或は志士となり千辛万苦人生の艱難を嘗め盡して遂に米穀取引業に従事し始めは僅少なる空米的賣買より身を投したるも君の慧敏ある早くも其業に熟達し利益を占めたる尠なからず而して資産増殖するや指を株式市場に染

めて利益する所あり進んで株式取引所仲買業を開きたりき

蓋し君の株式仲買業を開くもの其志は株式取引業を以て商業の真髓を穿ち商界の實況に通じて大商策を施し奇利を一時に制せんとしたりしなり故に君は其業に従事するや熱心精勵凡百の事物に注意し商略の得失を研鑽し以て商戰を挑みたるに果せる哉事々着々の中して其勢恰も織田信長が東海各地の軍を踏破して無人の境を行くが如く京師に上り右大臣の高官に任じ天下の實權を掌握したるに似て僅々數年間其業を遂成し巨萬の富を造るに至りたれば人仰で君の織田性なるに因み同業者中の平將軍と稱するとかや

宜なる哉君の商畧の奇警なる進退の敏捷なる織田氏の兵を遣るに均しく成功の迅速なるも亦織田氏に均しかりし而も君は織田氏の勇猛果斷に失せず多智宏才は秀吉の資の如きものあり寛裕大度家康の如き風あり深く仁慈義俠の志に富むと云ふ是を以て考察すれば君必ず將來に於て織田氏の如く蹉躓に遭遇せず秀吉の如く成功をなし家康の如く幸福を子孫に遺さざるなからんや一言以て君の將來を祝せん

十七

◎美術院長文學士岡倉覺三君

美は文明の母道に入る門なり往昔禮樂を以て人心を融和し文學を興して風俗を高尙にせしと云ふもの吾人を欺かざるなり實に岡倉君は其目的に於て一世の美術を代表し東洋の光輝を世界に耀かさんと期し苦心慘憤拮据經營して其志を半ば達し未だ半ば達せざるの人なり今後に於ける君が其志を全達し東洋の偉人として名を青史に垂れ國光を萬國に耀かさんこと刮目して待つべきあり

抑も君は舊越前福井藩の出身にして文久二年十一月誕生し明治十三年漸く十九歳を以て東京大學政治理財學を卒業し文學士の稱號を許されたるの秀才なり夙に美術を興隆するの抱負あり世に出で始め文部省音樂取調掛となり斯道の爲めに建築して全十九年美術取調委員を以て歐洲に派遣せられ在留歲餘大に得る所あり歸朝後美術學校幹事となり褒賞繪畫取調委員、第三内國勸業博覽會審査官、臨時全國寶物取調委員を兼ね同廿二年五月帝國博物館理事に推され久しからずして美術學校長兼教授に任じ斯道の爲めに貢献する處多く舉世君

十八

を稱して日本美術中興の偉功ありとせり依て政府は全二十三年十一月勳勞を表旌し藍綬褒章を授けられたり蓋し空前の盛儀なりし又高等師範學校本朝奈良時代美術上講義を負擔し臨時博覽會事務局審査官に任じ同二十六年清國へ派遣せられて夏殷國以來の美術を調査し大に東洋美術の秘論を開きし功あり從五位に陞叙し同二十九年帝室技藝員の撰擢委員を命せられ勳六等に叙し瑞寶章を賜ひたりしも同三十一年三月君の盛名を羨怨するもの、讒誣に遭ひ遂に美術學校を退きたりと雖も美術界に於ける君の名望勢力は毫も損滅せらるゝ處なく別に私立日本美術院を設けて美術教育の爲めに盡瘁せらるゝと云ふ

尋て君は日本、印度、西洋美術を比較研究するの目的を起し先づ印度に到りしに大に同地僧侶の歡迎を受け遂に東洋佛教大會の擧を囑托せられ君は日本の勢力を扶殖せんが爲めに其請を受けたるを以て亦もや君は成績を猜忌するもの、爲めに阻碍を蒙むると云ふも之れ一時の變異に過ぎず誠忠無二公明正大なる君の進退行爲は自ら晴明するの期近きにあるなり

嗚呼君は英明の才鵬大の懷を負ふて國家社會の爲めに

貢献する所あり而して曩きには美術學校の災あり今亦此厄に拘る抑も天道の非なるか君の過なるか痛歎に堪へざるなり然れども亦退て考れば天の斯人に大任を降さんとするや先づ之を死地に墮れて神を養ひ膽を練らしむるもの先哲古賢の皆免れざりし常經なれば之れ亦君の偉人なることを證明するの一事跡ならんや君宜しく努力して以て明治聖代の大成功の人に登るべし吾人は私かに教育的の福澤翁は他日必らず美術的岡倉氏ならんことを指擬して疑はざるなり

◎内外火災保險會社取締役兼

中央貯蓄銀行監査役田村金松君

田村金松君の先祖は越後國蒲原郡江原島村の農田村傳右衛門氏なり其子與七氏江戶に移つて菓子商を營み商號を樹屋と稱し家業繁榮小石川表町に住す二女あり長をモヨ子と云ひ薄縁者にして初め與三郎氏を夫として長男友七氏あり次に與兵衛氏を入れて次男傳次郎三男金松の二氏あり亦友八氏と結婚の式を擧げたるも幾くもなくして死去せられたり二女クラ子は夫常吉氏と共に牛込區通寺町に分家しモヨ子死去後入て家を續ぎ常

十九

吉氏は二代目與七となり友八氏は常吉と改名し三男金松君の養育を擔當したり是れ安政三年頃なりき後明治八年戶籍改正の結果常吉氏と金松君は實父子となれり此金松君は吾人が天下に紹介せんとする偉人なるなり君は嘉永五年の誕生にして幼より剛岸俠氣に富み英敏の才能く隣人を驚したり君九歳にして祖父與七氏に伴はれて二毛地方へ湯治に赴き登山を樂として危難を顧みず祖父の叱責を意とせず鳥も翼を収むる二ッ岳の八合目に登れり蓋し此山に登るは年中僅かに三日にして而かも五合目を制限となすに君は能く八合目に至れるの勇氣は實に驚かざるを得ざるなり

又君は榛名山に行きて野猿に襲はれ携へたる栗柿を抛擲して漸く逃れ歸りたる事もあり當時少年隊なるものありて鬪争を事とせり君は揚場町組に加はり拔群の聲譽ある赤城下組と戦をなし我軍敗走君獨り殿戦して敵の包圍攻撃を受け下水に投入せられ出血淋漓全身唐紅を呈したるに再び數名の敵に竹杖もて亂打せられしも君は滿身の勇氣を鼓して之に當り遂に敵の携帶せる小刀を奪ひ意氣揚々として歸陣したり亦以て君が幼より氣骨ありしを知るべきあり

翌年君家業見習の目的を以て両國吉川町菓子砂糖商伊勢尾徳三郎氏の店丁となり勤勉實直能く主家の爲めに盡す所あり進んで主管となりたれども家事の都合により家に歸れり君は性來本業に熟練しあるのみならず一般商機に鋭敏なるを以て明治二年營業管理を父より一任せられ砂糖を營み世の遺利を拾取せんとし實業界の勢況を考察して怠らざりしに會々同六年貨幣制度公布せられ一兩の太政官通用札は三十四錢にて購ふを得たれば君は父君と謀り此機に乗じて多額の太政官札を買収せしに僅かに一ヶ月を経て一兩は一圓に改まり君は一時に數千圓の巨利を博したり

同九年君は差配人に擧げられ父君は第四大區十小區の區費調査掛となり翌十年君は赤城公立學校に名譽職の出納掛となり越へて同十二年父君は區會議員に擧げられ君は職務勉勵の故を以て府廳より賞状を受け公務に盡瘁せらるゝと共に益々商法を擴張し時勢の變遷に應ずるの商畧を施し着々奏功して巨萬の富を積み國家の爲めに力を致されたる所尠しとせず惜むらくは同二十四年父君は不歸の郷に旅立したり依て同年君は家督相續せられたり

而して後同二十七年金貨本位の實行に當て利害調査の任を完ふし大藏省より賞状賞金を下賜せられたることあり又君は國民教育の發展を計らんとして區内小學校増設を主張し校務委員に擧げられ各小學校建築費を補助して東京府廳より賞状を送られたり其他公益事業に盡力せられたる一般概畧は左の如し

一牛込區衛生會員同評議員に撰まれて區の衛生事務を整理し區民をして衛生に重きを置かしむるに至れり
一明治二十六年以來同區會議員に撰出せらるゝこと數次又牛込區徵兵獎勵會公民會等の幹事として公務に力を盡し區民に囑望せらる

又實業上に於ても信用高く内外保險會社取締役として

社務を整齊し社運を隆昌の域に進め株式會社中央貯蓄銀行監査役となり同銀行をして益々確實の名をなさしめたり尙ほ君は教育衛生救恤等に力を盡し資を捐つるがために賞状を受くるもの十數回に及べり就中教育は君の畢生の公共事業にして吾人の感謝せざるべからざる所ありとす

君の二十二歳の時に嫁したるものにして淑徳高く貞操の氣眉宇に表はれ克く家政を料理して内顧の憂なからしめ思想圓満才氣縱橫常に夫の帷幕に參して謀を進め能く散するの美譽を實行せしめ同三十年には合婚の禮を擧げられてより二十五の星霜を経たるを以て盛大なる銀婚式を張られたり以て變遷の氣家庭に充ち團樂の樂如何に大なるを想起せずんばあらず實に龜鑑とすべき好一對の夫妻と謂ふべし

◎紳商藤田藤一郎君

藤田藤一郎君は幼名を惠作と呼び美濃國岩村の藩士にして天保十二年正月藩領駿河國志太郡横内村の陣屋に生る父君を嫁木俊平と稱し母君の實家遠江國榛原郡住吉村に成長す幼にして俊秀自ら大人の風あり有爲を以て郷人に許さる

當時外船來りて互市を迫り幕府其措置に苦み浪士横議して攘夷を唱へ天下騒然たり君感ずる所あり年齒僅かに十七江戸に出て各所に流寓して同志の傑士と結び千辛萬苦志望愈々堅し後故ありて幕府旗下の士藤田氏の養子となり藤田の姓を冒し名を藤一郎と改む偶々幕府

政を失し尊王討幕の説諸國に高く志士皆劍を揮つて立たんとす君思へらく尊王討幕獨り忠誠にあらす天下の志士は宜しく王政復古を計るべし余は富を成して國を益せんと乃ち劍を棄て、商海に投ず以て其見の凡ならざるを知るべし

而して君は維新後西洋小間物店を開きたるに其業益々繁榮を極め大に資産を増殖し遂に府下有數の巨商となり德行高く府民の囑望する所となれり

明治十三年日本橋區會議員に選ばれ尋で東京府會議員に擧げられ同十四年公立常盤學校建築委員に推され又同校事務委員を托せらる當時同校の維持極めて困難にして世人皆近く閉校の禍あらんと豫想せしに君苦心經營區民に説き府知事に謀りて其維持策を建て又伊勢町に於ける小渠を埋立て一は以て同校の財産として其基礎を固め一は以て衛生上の害を除く常盤學校の今日あるは蓋し君の功多きに居ると云ふ尋て西洋小間物商組合を組織して其重役となり又同組合より推舉せられて東京商工會員となり日本橋區衛生會幹事、教育會評議員兼幹事、徵兵參事員等となり日本橋區公會堂及び日本橋俱樂部創立に盡力し同俱樂部の幹事兼執務委員を

托せられ同廿五年東京商業會議所議員に選舉せられ同二十九年東京市會議員に選舉せらる爾來數年任にあり孜々として怠らず是より先き明治廿三年第一議會の召集せらるゝや君は故藤田茂吉氏を推して日本橋區に候補者たらしめ多數を以て當選せしめたり議會解散せられて君再び茂吉氏を推して復當選を得たり故に日本橋區選出の代議士皆君の幫助を借らざる者なく故楠本正隆氏亦大に君の力に憑れり殊に明治三十五年總選舉の際の如きは君大石熊吉氏を推舉して日本橋區に打ち出で前區長仁杉英及び大橋新太郎を敵として激戦し遂に大石氏をして當選せしめたりと云ふ

君軀幹偉大意志亦これに伴ふ好んで人の難を援ひ敢て惜む所なし夫人よし子亦慈恵に富みて與に公益に盡さる實に富の用法を知る者と謂ふべきなり富める者世に少からず然れども富みて自から樂み且他を賑はす君が如きは其備多しとせず君嫁娶を媒すること既に二十餘常に孤獨を助けて賢夫良妻に配せしむといふ

◎横濱正金銀行頭取相馬永胤君

維新以來泰西學術我國に傳來してより其學術に資して

諸氏を輔けて將に倒産せんとせしより盛大一世に冠たるに至る迄の事務を執掌し遂に取締役より頭取に陞進し十年一日の如く益々熱誠を以て盡瘁し諄々國家財政の休戚に任して怠る事なし氏の如きは常代の君子人と云はざるべからざるなり

◎海軍技師工學博士石黒五十二君

明治政府が維新の時學生教育の目的を以て設立したるものを大學南校と云ふ此學校は他の公私學校と異にして最も完全に最も高尚に設備したる處即ち帝國大學の全身にして此學校より出身して天下に偉蹟を立てたる名士甚だ尠ならずと雖も吾人は法學に鳩山博士を理學に菊地博士を礦山學に長谷川博士を工學に古市博士を推したりき然れども古市博士は佛學科の人なり英學科の出身には君を推すを以て正當と思考せり之れ要するに同學校の盛勢と諸君の成功を顯彰せんと欲するが爲めのみ特に我邦人にして海外に工藝事蹟を遺したる君の如きは特筆大書すべきの價値ありと云ふべし蓋し前記諸氏の閱歴は既に公録して後進子弟立身の資に供したれば今や亦君の閱歴を公録して其建勳を社會に紹

身を立て名を成したる人少なからずと雖も其手段方法に至りては或は權勢に阿附し或は非道に蓄財せざる者寡なし獨り相馬永胤君に至りては嘗て官人に倣從したる事蹟を聞かず又自家利益のために公義を曲げたる事あらざるなり吾人其事實を證明せんことを欲して君の畧歴を公録すべし

抑も君は江州彦根侯の舊臣にして夙に秀才卓識の名あり専ら英語を研鑽して明治四年米國に渡航しエール大學に於て泰西經濟法律の學理を専攻し大に造詣する所あり明治十二年歸朝して法律業務に従事し法官に列したり加之ならず君は我國民が經濟政治の思想に缺乏せるを憂慮し田尻博士、目賀田氏等同志を誘導し東京專修學校を設立して許多の子弟を薰陶し泰西の智識を普及せられたり之れ實に我國專門學校の嚆矢にして現在の各專門學校は固より慶應義塾大學、早稻田大學と雖も其嚆に習倣したるものにあらざらんや今日我臣民が立憲政治の眞味を咀嚼し能く之を東洋に運用し得たりと稱せらるゝもの君の賜物なりと云ふべし

而して君は大藏卿の命に従て横濱正金銀行の整理擴張の目的を以て同銀行に入り頭取原六郎、岡田孝吉等の

介せんと欲するなり

抑も石黒君は舊金澤藩石黒千尋氏の次男安政二年六月父君の家に誕生し幼にして藩の經武館明倫堂に和漢文武の學を講じ又時勢の必要に應じて西洋砲術を藩立壯猶館に修めて早く砲術教師に班し皇政復古の後三宅復一、岡田一六氏に英學を學び明治三年能登國七尾藩立の英學校雇英人に英學と數學を受け之を金澤に移すに當り更に金澤藩英學校に入り後ち藩主の命を以て大學南校に轉學したりき

然るに全四年廢藩置縣の變革あり君一旦學費の出處を失ひたるも進んで政府の官試に及第して文部省の貸費生となり開成學校に在つて土木工學を専修し全十一年東京大學に於て土木工學科を卒業し理學士の學位を受けたり

是に於て君は神奈川縣土木課に出仕し土木改良の爲に盡す所ありしが君優等の學績なるを以て全十二年文部省より英國留學生を命せられ倫敦市土木工師「エドワード、イーストン」氏の工業會社に入り業務を實習すること數年後ち土木工師の稱號を許され英國學術進歩協會の會員及び「インスチテューション、オブ、シビ

ル、インジニヤ」の會員に推薦せられたり其後政府の
官費留學を許し尙數年間英國にて土木の實業に従事し
其所得も少々にあらざりしと聞く
斯くの如くにして君滯英中は土木工事諸般の設計々畫
に従事し精勵熟達の技師として工業界に信用を博した
り

而して君が海外に於て實行したる工事中の著名なるも
のは埃乃國「アレキサンドリヤ」港の水道工事亞非利
加洲サヘラ大沙漠に接したる「ベヘラ」地方の灌漑工
事の如き即ち之なり「ベヘラ」地方の灌漑工事に従事
中の如きは十有五箇月間も沙漠中に「テント」住居を
なし寒暖計と華氏百廿度以上を示し炎熱灼が如くなり
しにも係らず病に冒されず工事を完成したるは君の身
体強壯なるのみならず精神剛堅なるに因らずんばあら
ざるあり特に今日「ベヘラ」地方の豊饒の地と化した
るも實に君に受くるの恩徳と云ふべし

之れより君は再び英國に歸り土木工師「エドワード、
イーストン」の工業會社に出勤し英國内各所の土木工
業に従事して功勳あり又「ケンブリッジ」大學教授
「ドクトル」フワミンダ氏と共に電氣「インシライト」

に使用する隙子器を發明して製造會社に許多の利益を
収めしめたり其褒賞を贈らるゝもの亦莫大なりしと聞
く時に明治十六年我國に於て電燈會社創設の舉あり君
を招聘したるに依り君は國利を鑑みて歸朝したるも故
ありて同會社を去り内務省御用掛衛生局勤務に出仕し
各地の飲用水改良工事等衛生上の施設を完成し尋で文
部省に兼勤大學理學部講師となり衛生工學を教授した
り蓋し君の技倆は土木工事の實業を以て本領としたる
に於て遂に内務技師に任じ土木局勤務に轉じて土木工
事の爲めに全腹の力を用ゆるに至りたり

宜なる哉君の土木局に轉任してよりは各地の土木を擔
當して良成績を得ざるなく先づ福岡、佐賀、大分、熊本
内土木工事の監督として福岡縣に在勤し明治十九年政
府吳佐世保の兩鎮守府を設置せらるゝに當り君海軍技
師に兼任せられ吳、佐世保兩鎮守府建築委員となり專
ら鎮守府設備に要する土木建築の工事を擔當せり
尋て君は土木監督署長に補せられ當時の六土木監督區
の内第四區土木監督署を除くの外其他の各土木監督署
の署長を歴任し明治二十四年八月工學博士の學位を授
けられ同三十年土木監督署技監正五位に陞り後ち海軍

◎貴族院議員野崎武吉郎君

夫れ鹽分は人生必需の成分にして我國人の食膳には
鹽を用ふるに歐米人に比して比較的多大なりとす故
に我國に於ては鹽を米穀と共に最も緊用なる食料品と
なせり其食鹽に四五種あり赤穂と云ひ齋田と云ひ新齋
田と云ひ大鹽と云ふと雖も赤穂齋田は産額少なく使用
の範圍狭く大鹽は元來粗製漁業農業等に用ひらるゝに
過ぎず一般社界の食料に供用せられる者は新齋田と
なす而して新齋田は元來鹽岐製鹽の名稱なりしも野
崎氏ありてより其半は備前備中備後等の製出に屬し野
崎濱の産出を以て最も大なりとなす

蓋し野崎鹽田の由來を尋ぬるに備前國兒島郡に武左衛
門と云ふ人あり利用厚生の術に長じ夙に社界に公益を
起すの志あり同郡味野村赤崎村の海岸は遠淺の砂洲に
して鹽田を開築するに最も適當せるを觀破し自ら鹽岐
に至て之を調査するに果して其處見の如くありし依て
直に歸國し鹽田開築の計畫を郷人に計るに同郷人は之
を信せず武左衛門氏の議に應ずる者なく是に於て氏は
東西に奔走するに於て資産を傾け遂に其目的を中止せ

技監に轉任し現に從四位勳四等海軍の勅任技師に在職
せらる但し君の海軍に轉任せられたるは二十七八年戰
役後海軍擴張に際し既設鎮守府の設備を擴張するの必
要あると舞鶴鎮守府を新設せられんとするに當り適任
者たるを認め廟議一決斯くの如くなりしなり尤も君は
文官技師を以て武官組織の海軍に入るは本來の希望に
あらずるも國家的觀念の爲に素志を抛ち官命に従ひし
ならん君の推重すべき所此精神にあるなり
又君は明治三十二年より三十三年に掛け官命を以て歐
米各國の軍港商港等を視察し我海軍及海事々業に利益
せし少なからずとす加之ならず君は各地重要なる土木
工事の爲めに専ら力を盡さるゝ所多く門司若松の築港
工事の如きあり近きは湖南瀛船會社の爲め清國湖南省
長沙府湘潭等に出張し湘水沿岸に於ける繫船壁計畫の
如きあり遠くは數年前君が擔當せられたる福島縣猪苗
代湖疏水工事大破復舊の如き地方人民の爲めに福利を
起したるものなりとす君は之れが爲め各所より頌狀金
盃等を以て勳績を表旌せらるゝもの少なからず工界の
泰斗と云ふべし

ざるべからざるに至れり

是に於て武左衛門氏は一計を案出し大坂に出で備前の豪農と吹聴し其舉動を研みて同地財産家の間に交際を結び終に塩田の大計畫を説いて資本出金の仮約を成し之を郷里に伴行し郷人に向つては大坂にて大資本主を得たりと稱し人心を鼓舞奮勵せしめて漸く事業に着手し歳月を費して竣工し今日は地方全體の大利益を遺されたり

爾來幾多の星霜を経て地味成熟し製品は良好となり益々繁盛を極めたるに偶々維新の改革あり地所々有權を人民に許されたるに於て彼の武左衛門氏が築造したりし數十町歩の塩田は其縁故を以て野崎家の所有に歸したりき故に今日の野崎家の富は全く先人武左衛門氏の遺徳に出ると雖も此資産をして益々富豊に野崎家をして益々良名あらしめたるものは當代の武吉郎君が德行あり公愛の心術に富むの爲ならざらんや

實に君は嘉永元年出生武左衛門氏の嫡孫にして元治元年十七歳を以て家を續ぎ祖父武左衛門氏に受けたる遺傳的不屈不撓明敏機智に於て世に處し勤儉正直息る處なく事業を出精して家名を隆さず大に一家の豊富を加

二十六

へたり故に慶應元年岡山藩主は君が家の地方に公益を起し家門亦繁昌するを以て藩士に列し食俸を賜はりし又君は忠誠の心を以て藩内の軍用を資助せんが爲めに巨多の金圓を献納したるに藩主は更に祿十石を加増し大里正格を許す後融通方用掛を命せらる君藩主の厚遇を感佩して同志と共に行軍臺野戰砲拾挺を献す明治元年藩主は君を鐵砲士格に陞せり之れ其功を賞せられたるなり同四年廢藩置縣の時に及んで岡山縣士籍に列せられたり同五年君は公義心を以て私金三千圓を投じ岡山市に街燈を設置し通行の便を開き且市内の繁昌を助けたり其他學校の建設道路の修築等公共に盡す所寡なからず水害海嘯暴風罹災貧民の救助等に金圓を義捐するもの枚擧に遑あらず金銀盃褒狀を以て天下に旌表せられたるもの前後十數回の多きに及び

又君が明治四年新縣設置以來岡山縣出仕商社係三十八區學問所副統括兼會計元請勸業係等に公職を奉じ同九年後縣會議員に當撰したるも病の爲に辭職し同十六年食鹽及び製鹽圖を製造し東京水産博覽會に出品して有効の賞辭を蒙り第二回水産博覽會評議員兼鹽業調査委員に擧げらる同十九年皇城御造營に際し金壹千圓を同

二十二年海防費金壹萬圓を献納して特に從六位に叙し勅定金製黃綬褒章を賜はる同二十三年帝國議會の開設に際し貴族院議員に互選せられ同三十年七月再選の榮を受け今日に至れり

斯くの如く君の閱歷は義舉を以て充され慶應年間より明治の今日に至るまで君の事業は總て慈善を含まざるものなし嗚呼君の如きは義と慈の權化なるかな

◎豪商升本喜樂君

東京市内に於て商賣の範圍最も廣く支店分店の組織最も完備せる清酒販賣店を舛本酒店と云ふ而して店主舛本喜樂翁の高徳にして陰徳の結果今日の富榮を來したるは人の知る所なり吾人爰に君の傳記を公録せんとするものは忠孝仁義の人の能く成功するものなる事を青年子弟に教ゆる所あらんと欲するが爲なり

抑も君は文政五年八月廿五日を以て江戸千駄ヶ谷大番町に生れ本年八十有二歳の高齡なれ共鏗鏘として壯者に譲らず常に公益の爲に心を盡さる而して其家系を尋ぬるに祖父は伊勢國田丸の出生松田幸次郎氏にして江戸千駄ヶ谷大番町にて酒類商業を開き松本幸助と改め

營業日に月に繁盛に趨き當時既に松本商店の名あり隨て資産も餘裕あるに至りしが父君新助氏に至り家道振はず君は遂に十二歳にして江戸屈指の酒類販賣店三河屋六郎次氏の店丁となり勤勉誠直一に主家を思ひ信用厚かりしが十八歳の時主人六郎次氏は其家を全支店小川嘉助氏に譲りしに於て一家和合せす君は遂に放逐せられ同業者兩國の伊勢屋に寄食するに至れり居ること三年舊主嘉助氏病を得て没し同店主管喜兵衛氏家業を續ぐに及び再び三河屋に歸りたれども君の志は父祖の家を回復せんとするにあれば二十六歳主家を辭し自ら姓を舛本と改め名を喜兵衛と稱し一小酒店を開業したりき

茲に於て君は發奮精勵家業漸やく盛んならんとし祖父幸助氏并に父新助氏叔父捨三郎氏の三人一ヶ年間に不歸の郷に旅行せらるゝに遭ひ又翌年類焼の禍に罹り不幸頻々遂に家産をも失ふに至りたれば君は市ヶ谷藥王寺前町に轉住し酒薪炭の卸小賣等を開店したるに家業再び繁榮したれども該店は舍弟喜平治氏に譲り君は更に牛込揚場町に轉住し清酒問屋を開店したり蓋し當時維新過渡の時代にして府下の商業甚だ振はざれば君

二十七

は京藩地方に遊歴して歸京したれば憐れなるかな舊幕臣は静岡に移住し藩の公邸は悉く荒廢し朝廷の規模未だ定まらず實に新東京は荒涼閑寂亦なすべからざるが如し時に舊幕臣邸宅跡の御拂下あり地價は低廉にして神田麴町其他各所の地所千坪貳拾圓或は貳拾五圓餘に過ぎざれば君は此機を失せず財産を盡して各所數萬坪の地を購入したりき

實に君が先見の明なる果せるかな數年ならずして東京の盛んなる同江戸の繁昌にも優り地價高騰して數十倍となり現に君が嘗て一坪二錢五厘を以て購ひたるもの今は一坪二十五圓を超ふるに至り君の資産は日ならずして幾萬の多きに達し今日に及んでは實に百萬圓余を以て稱せらるゝに至れり

蓋し君は元來徳義心に厚く如何に幾萬の富をなすも父祖の家業を廢するに忍びず猶又清酒販賣業を擴張し外本清酒店に富裕なる資産を投じて一面には小賣業を盛んにし一面には酒問屋業も兼ね府下第一流と呼ぶるゝ迄に到達したり

而して後明治二十三年十一月家業を甥なる真兵衛氏に譲りて退隱し名を喜樂と改め清閑の身雅遊を好んで神

佛を尊信し慈善事業に與り毫も他念なしと云ふ今其の慈善に關する二三を列記すれば左の如し

一常に區内の窮民孤兒等を救ふが爲めに救恤の證として救札を製し數千枚を區役所へ差出し置き窮民孤兒等の申出に因り區役所より該救札へ貳圓或は參圓等の金額を記載し差遣したる時は夫れを證として惠與せらる

一朋友親或の急に赴く事屢々なり
一區内労働者を愛憐するの心を以て夏は一蓋の笠を與へらるゝと聞く

一君の家に仕へ忠誠なるものには皆若干の資金を與へ營業に従事せしむる法を定めたり

或は救恤等枚舉に遑あらずして金盃、銀盃、賞狀、等を授けられたること少なからず殊に明治二十年七月海防費金千圓を献納して銀製黄綬章を賜り同二十七八年の役には大勝利、勝軍、大和魂等の銘酒五十樽宛則百五十樽を兵站部に献じ又出征兵留守宅には金圓を寄送する等深く忠志を盡したり又君は恩徳の高きと節操の正しきを以て公職に推撰せられしは明治十三年以來東京府

會議員、所得税調査委員、徴兵參事員、區會議員、學務委員等にして尙は會社等の重役に推戴せられたるもの甚だ多し

◎工學家野澤泰次郎君

我國由來機械的智識に乏しく工業甚だ不振なりしを以て此方面に於て發達したる人誠に少なく神戸に川崎正藏氏の造船所あり東京に淺野總一郎氏の「セメント」製造所西村勝藏氏の製靴所あり栃木に野澤君の諸製造所あるが如きに過ぎざるなり而して君は本來農家の出なれども公共心に富み仁愛の特性あるが故に職工の歸服隨心を受けて今日の成功をなしたりし

吾人私に其實際を採問するに君が紡績場を設立するの始め家産未だ裕かならざるに加へて朋友親戚皆君が工業に熱中するを快とせず敢て其起業を扶くるものなく漸く製造場の設置竣工して運轉の資金既に缺け職工の給養に不足を告げしもの數回にして足らず甚だしきに至つては六十餘名の職工に對する僅かに數升の白米あるに過ぎず寒風霜を侵せども着くるに綿衣なく臥するに寢具なきことすらありし而かも六十の職工は日に

飢寒を訴ふるなく身の勞役を苦しとせず諄々として主家發達にのみ心身を顧みざるの決心をなし三日食はず寒夜衣なきも場主に飯を捧げ温袍を進むるの衷情を致したり君は此心に乘じ以て最初の事業を成達せられたるなりし

君嘗て人に語て曰く予が成業は一に職工の忠實に基けり當時職工の苦辛せし跡を追憶すれば覺えず涙潸然たりと即ち君が至誠の心と熱實の性を以て部下を愛撫するが故に職工自ら信服して我身を忘るゝに出でたる處此情以て業を成すべく國を起すべきなり明鑑史に存す古來名君賢將の國を起し功を建てたるに於て知るべし若し夫れ現今各工場之如く労働者の給養に不足を鳴らし勞役に不満を訴へたらんか君の事業は遂に成立せざりしや明かなり

蓋し斯の如き事蹟は我國の古道にして道義を是れ定命となし優勝劣敗拜金實利の洋風に忤まず主従の義師弟の禮なるものに重きを置けるが爲めに出たるのみ吾人は常に此大道を以て社會救済の實を擧げ資本家と労働者を親睦ならしめんと此主義を鼓吹せしに闢らざりき茲に君の教を受けんとは實に歡喜に堪ざる所あり

故品川彌次郎先生常に其徒に告げて曰く日本將來に於て最も憂慮すべきは資本家と労働者の衝突なり之れを防止するには日本の古道に據り主徒の義子弟の禮を教へて西洋の習慣に感染せしめざるにありと而して品川先生は野澤君と莫逆の友なり先生は野澤君の事蹟に於て此格言を發見せられたるか野澤君は先生と共に當代の達見者にして労働者統治の範を後世に垂れられたる恩人と云ふべきなり

又君の家傳及び一身の實功を建てられたるの事蹟を檢覈すれば左の如し

君の家は栃木縣下野國芳賀郡大内村の豪家にして米穀商に於て營業の範圍最も廣く地方に冠絶したり又同漕業を兼ねて運送船三十六艘を所有し資産殷富なりしに一朝風水の變災に遇ふて多額の財貨を積載する三十六艘の船舶は河底に沈没し財産を蕩盡し家道大に衰退して如何ともすること能はざるに至れり

君此時に於て父君の後を承け家道を恢復せんと勤勉し又地方公益の爲に盡瘁して縣會議員に撰出せられ副議長に進められ區長戸長に任せられたるも君獨り考ふるに斯くの如くにして一生を徒に過ささんには眞に地方

の利益を起すこと能はざるのみならず自家の財産を回復すること難かるべし

如かけ地方の經濟に鑑み自己の好尚に殉へて綿糸の事業を起し地方細民に事業を與へ地方の農産を増殖せしめんと斷然一身を事業界に投じ農商務省に請ふて西洋紡績器械を模造し郷地に野澤紡績場を設け事業を開始せしも前記資本僅少と器械不完全なるに由り營業意の如くならざりしも君の職工を統御するに道を得たる君の苦心經營して資金を融通し器械を改良したるが爲めに稍や安堵の地位に進みたるも不幸なるかな倏忽火災の厄に遇ふて工場全部を烏有に歸したり

然れども君の剛志なる更に屈撓することなく再舉の策を講じ漸くにして新工場を設定したるに商況不振の爲め製品出荷せず殆んど營業を休止せんとするに瀕したり會々市場景氣を回復し數月に積滯せし製品も數日ならずして賣盡し製造額は市場の需用を充たすに足らざるの盛況となり製品を競ひ買はんとして官に保護を請ふものあるに至れり是れ主として商況に基くと雖も君の製造品の他品に比して特長あるにも據らすんばあらざるなり

爾來君の運命は愈々向上の一方に傾き數年を出でざるに資産大に増殖して君の目的を成達し尙亦綿糸に伴行すべき綿布製造場を起して更らに地方の産物を増し細民に職業を與へたり加之ならず其多年工夫を凝せし諸器械類も漸次成就し皆實用に適して世の歡迎を蒙り之れがためにも巨利を博したり其目左の如し

一、君は我國家瓦製造法の粗笨を憂へて多年の研究を積み試験の後社會に出せしに早くも其有功を認められ資本金拾萬圓を以て東京府下南葛飾郡金町に金町製瓦株式會社を設立せられ營業隆昌なり

二、君は亦綿糸綿布の製造に従事して綿打器械の不完全に苦しみ之れを改良して其缺を補はんと數年の辛酸を嘗め遂に之れを發明して專賣權の特許を受け金町と大坂とに製造所を設け盛んに之れを製出して世の需用を充たせり此器械や歐米諸國にも未だ發明なきものなり

三、君は綿布を製出して聲價あるに中形染法の未だ備らず模様の高尙ならざるを憾とし範を内外に執り工夫考案を費して形付器械を發明し「ヒサカタ」染と名け專賣權を受けて發賣せしに都鄙の嗜好に適して大流行を

なせり夫れ斯の如く君は一度運命の寵兒となりてより事々物々に成功して一の頓挫するとなかりしかば益々進んで紡績場、綿布製造場を製瓦會社と全しく會社組織となし下野紡績會社、下野綿布會社と云ひ一時は君皆社長として事務を執掌せしも業務多忙の故を以て今日は大株主顧問役となり綿布工場、形付工場の營業と共に監督せらるると云ふ

又君は令息武之助氏を獨逸に留學せしめたるに全國及び瑞西國大學に於て六星霜の研究を重ね法律大博士の學位を授けられて歸朝し暫らくと各専門學校に講師たりしめ栃木縣第一區より星氏に代り衆議院議員に當選して政治界に飛躍せしめられたるも家業益々繁榮に赴き君も亦高齡に達したるを以て退ひて營業を補助せしめ聊か身に清安を求めらるゝが如しと雖も未だ鏗鏘として退嬰するにあらず尙國家に盡さんとせらるゝとかや實に忠誠の君子と云はざるべからず特に君は興業殖産の功勳高きが故に曩きに勅定綠綬褒を賜章ひ閩里に旌表せられたることあり尙又位階勳章を以て其功に報ひられんこと近きにあらんか

長春堂特効良藥謹告

●英藥
●英明膏
●痔疾丸
●痔漏膏
●鴻通散
●大博士
●賣藥卸
●內外物產
●藥種問屋

瘡毒微毒諸症一切に大効あり
其他「れうまろす」に奇妙なり
疔瘡下疳腫物一切に大効あり
田虫水虫雁瘡毛虱に即効あり
痔毒瘡熱を兩便に通じ腸胃を健に
し……痔疾一切の特効藥なり
痔脱肛其他肛門の腫れ爛れ
總て外部の患に大効あり
懷中欠く可らざる貯藥にして……諸
の急症を治する特効劑なり
衛生上と經濟上有益無二の齒磨也
各品共總て特別出精便利販賣仕候
委託賣買總て御便利を圖り可申候
醫用藥品。醫療器械。工業藥品。
香料藥品。繪具染料。線香煉香。
其他和漢の藥種及化學試驗用等一切の藥品

東京日本橋區本町四丁目十八番地

松本合資會社

毎月一回發行 定價一冊金貳拾錢
廣告料 二十四字詰一行 金三十錢
全 半頁三十行 金八圓
全 一頁六十行 特別 金十五圓
公錄料 一回 金五十圓
但賛成者ノ公錄ハ無料トス

明治卅六年二月二十四日印刷
全 年二月二十七日發行

發行兼 編輯人 浦上新吾
東京市牛込區市ヶ谷本村町
三十五番地

印刷人 廣井錄之進
東京市牛込區市ヶ谷本村町
三十五番地

發行所 國鏡社
東京市牛込區市ヶ谷本村町
三十五番地

印刷所 草木活版所
東京市麴町區三番町
二十三番地

終